

社外取締役メッセージ



社外取締役

鈴木 吉宣

持続的な成長と 企業価値の向上に向けて

企業価値尺度としての当社の時価総額は直近4年間で4倍以上に拡大しました。これは継続した組織革新と社員の成長、及び協力会社など社会から支えられて迎えた創業100周年の当社の姿でもあります。

そのような中で、2023年度はさらなる成長と価値向上に向け、積極的に投資実行を断行した年となりました。特にタンケンシールセーコウのグループ会社化は今後注視すべき案件と捉えています。

私がこれまでに国内外10件ほどのM&Aを経験し学んだことの1つに、「意思決定のためには企業統合によるシナジー効果の妥当性・重要性和その実現性の判断が大変重要である」ということがあります。対象企業の簿価以上の価値の大半はシナジー効果として見積もられた「のれん」という価値になります。多くの「のれん」価値の妥当性・実現性・金額評価やリスクなどの確認に向け複数回にわたり取締役会において質疑応答を重ねた結果、今後の利益の源泉となる市場差異化の強化・拡充に資する挑戦であることと実現の可能性を確認し、賛成しました。

さらなる自己成長という満足感を得て、目標の達成に燃える新しい当社グループの実現こそが、このシナジーの実現を確実にするものと信じています。そのためには今後2年ほどの期間がより大切な年と考え、引き続き取締役会に臨みます。



社外取締役

駒村 純一

さらなる成長の歴史を重ねる 気概の100年企業

流体制御の基幹技術を進化させ、折々の市場ニーズを捉えて事業を多面展開し成長してきた当社は、2024年に創業100周年を迎えました。これを節目と捉え、さらなる成長の持続と社会的責任・貢献を常に念頭に置いて取締役会に臨んだ2023年度でした。

2023年度は、中期経営計画「One2025」の実現に向けて近年にない積極的に投資をした特徴的な年度でした。いずれの案件も議論を重ねたうえで、将来を睨んだ実効性の高い案件と認識しています。その中で私が注目したのは、福知山事業所第2工場及び三田工場イノベーションセンターの建設などの一連の投資でした。期待される半導体需要の回復に対応するには、当社製品の生産能力とそれを支える開発力(生産性向上・技術革新)の両輪の強化、また、付随する諸課題への取り組みが重要と考えています。

自身の経験を基にかなり実戦的な意見具申を心掛け、執行サイドの呼応もあって相当の手応えを感じることができました。

「One2025」の実現とさらなる成長に向けて、2023年度の大規模投資が早期の収益向上につながるように、加えて海外事業の拡大も視野に入れて、想定される阻害要因の抑止や対処法を模索して、建設的な意見を具申していきます。



社外取締役(監査等委員)

高谷 和光

DXの活用による サステナブル経営のさらなる発展へ

企業の持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けた課題の1つとして、「サステナビリティを意識した経営」が掲げられています。

2023年度の当社取締役会の議論で印象に残っているのは、こうした環境下において、当事業年度からのスタートとなる中期経営計画「One2025」により、その取り組みがよりレベルアップしたことです。

前中期経営計画「BTvision22」で取り上げられていたESG施策に、人財への投資とDX(デジタルトランスフォーメーション)の活用が新たに加えられました。

特に、DXの活用については、前年度まではあまり議論の対象になっていなかったことでもありますので、これを一つのテーマとして掲げられたことは大いに評価できることと考えています。

DXで単に業務をIT化するだけでなく、当社がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立するよう議論していきます。

私は公認情報システム監査人(CISA)の資格も保有していますので、その経験と知識が今後の議論に活かさればと考えています。



社外取締役(監査等委員)

小林 京子

社外の視点で忌憚なく 意見を伝え健全な経営に

当社は、創業時の事業をさらに発展させる一方で新規事業の展開や開発にも注力しています。2023年度の取締役会では複数の投資案件について審議しましたが、当該投資のリスク及びリスクヘッジ策の有無や内容、リスクを上回る投資意義の有無等を検証することが取締役会の役割の1つであると考えています。

審議案件については既に社内でも多角的に検討されています。取締役会においても、社外取締役の質問に対して執行サイドが説明することを通じて、社外の視点から検証をしています。私は、弁護士という職業柄、企業が事業遂行するうえでのトラブル事例や失敗例も多く見聞きしています。リスク管理の観点から、悲観的なシナリオを想定し、当社ではそのような事態に陥ることのないよう、さまざまな角度から意見を述べて議論しています。

社外取締役はしがらみがありません。私が感じたことや会社にとって必要と考えたことは、遠慮なく執行サイドに伝えており、今後も積極的に意見や助言をしていきます。

また、2023年度には女性社員との座談会に出席し、現状とともに率直な意見を聞くことができました。当社の女性社員が、より活躍できるようにという観点からも取締役会で意見を述べていきます。